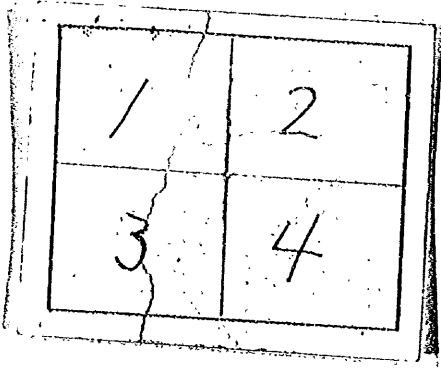


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1489
1490
1491
1492
1493

第一方面軍直轄
第三十九師團

部隊名 歩兵第三八二聯隊

通稱 號不 屈三七三〇四部隊

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	編制人員	隊別	隊長名	開入時	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ運の變動	入ソ人員	滿洲残留		
<p>二〇、七、三一 瀋陽大石頭にて編成 人員は定員の約半數 裝備全長小銃各大隊毎別 大石頭附近陸地構築施設 開墾となり、南滿附近陸地 廻りにつく 大石頭出發後連中六石頭 にて終戦</p> <p>八、一七 教化に移動</p> <p>八、二〇 高地に於て武装解除を受く 武裝解除施設に於て命令に 依り終戦に際して一名を除き 下士官と滿洲教育官 各隊長副團司令部に出席す 陸隊逃亡者は終戦入より暴 行を受けたる模様</p> <p>八、二八 教化に於て混成第二四〇作 業大隊に編入</p> <p>九、二 師団は沙河沿に移動各隊隊 別收容する機師長木下大 佐大尉班、中尉班 隊部不詳 少尉班中隊長 陸軍少佐山田〇〇第一三九 師團高級副官隊長のみ 「カザン」に於て表裏を受 けるも現在何等の處罰なし</p>		<p>一九一九年以降 一九一九年以降</p>		3409	<p>第一聯隊本部</p> <p>第一大隊本部</p> <p>第一中隊</p>	<p>大佐 遠藤三郎 副中尉 山田吉典</p> <p>大尉 望月今一 副見士 荻原弘志</p> <p>中尉 河田 榮一 少尉 高橋 淳</p>									
<p>昭和二十年九月五日教化に於て作業第二三八大隊編成 （長 准尉 野村國義） 九月二十八日出發 十月六日滿洲里經由 十月二十一日「アルタイ」五一ノ六收容所に收容</p>															
第三	隊中	<p>少尉 友近 滿房</p> <p>少尉 三浦 淳二 少尉 夏坂 勇一 少尉 田間 英彦 少尉 嵯峨 直代</p>													

八、二二 教化
八、二五 沙河沿
一一、三 波河經由ソダ
收容所

部隊名 歩兵第三八二聯隊

通稱 號不屈三七三〇四部隊

郵便所名

3409		員人制編		降	
三第	隊中	隊中一第	部本隊大一第	部本隊一聯	別隊
少尉 三浦 淳二 少尉 夏坂 勇一 少尉 田間 英彦 少尉 嵯峨 直代	少尉 友近 浦房	中尉 河田 榮一 少尉 高橋 淳	大尉 望月 今一 副見士 萩原 弘志	大佐 遠藤 三郎 副中尉 山田 吉興	隊長名 (内は先代を示す)
					開人 戦時 平時
					駐屯地
					戦闘間の状況及損耗
					終戦後の人員變動
					作業大隊より入ソ迄の變動
					入ソ人員
					満洲残留
					收容所名
					收容所 ネーブルスカヤ バルナウル トムスク ネグロスカヤ ロストフカ
					所人
					死亡
					満洲より
					領
					計
					状況不明者数

八、二二 敦化
八、二五 沙河沿
一、三 波河經由ラリダ
收容所

昭和二十年八月十五日南嶺陣地に構築に参加、隊長以下四十名馬、受領のため鏡泊湖に赴いたから「ソ」軍の攻撃を受け、八月十八日停戦命令により現隊復讐、變化飛行場に集結、八月十九日同地で武備、人員百一名（確、其ノ池三名）

八、一七
變化の移動

八、二〇
同地にて武器弾薬を受く
公使隊除隊後、命令に
依り特設隊員一名を除き
下士官と隊員を收容す。
部隊長司令部に出発す
隊員は各に隊員より奉
行を受くる。

八、二六
變化に於て混成第二四〇作
業大隊に編入

八、二二
同地にて武器弾薬を受く
公使隊除隊後、命令に
依り特設隊員一名を除き
下士官と隊員を收容す。
部隊長司令部に出発す
隊員は各に隊員より奉
行を受くる。

八、二五
同地にて武器弾薬を受く
公使隊除隊後、命令に
依り特設隊員一名を除き
下士官と隊員を收容す。
部隊長司令部に出発す
隊員は各に隊員より奉
行を受くる。

3409

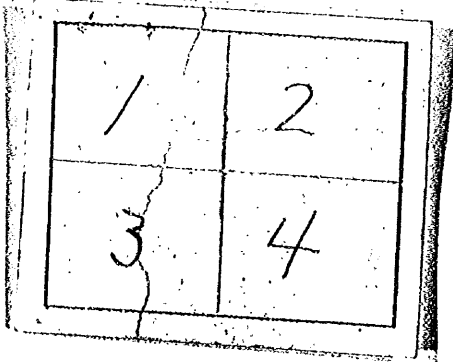
隊中銃關機一第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊一聯
少尉 野崎 一夫 少尉 野崎 一夫 少尉 野崎 一夫 少尉 野崎 一夫 少尉 野崎 一夫 少尉 野崎 一夫 少尉 野崎 一夫 少尉 野崎 一夫 少尉 野崎 一夫 少尉 野崎 一夫	少尉 三浦 淳二 少尉 夏坂 勇一 少尉 田間 英彦 少尉 嵯峨 直代	少尉 友近 満房	中尉 河田 榮一 少尉 高橋 淳	大尉 望月 今一 副見士 萩原 弘志	大佐 遠藤 三郎 副中尉 山田 吉典

昭和二十年八月十五日南嶺陣地に構築に参加、隊長以下四十名馬、受領のため鏡泊湖に赴いたから「ソ」軍の攻撃を受け、八月十八日停戦命令により現隊復讐、變化飛行場に集結、八月十九日同地で武備、人員百一名（確、其ノ池三名）

八、二二 教化
八、二五 沙河沿
一一、三 波河經由ラッ
ト谷所

隊中銃關機一第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊一第
少尉 野崎 一夫 少尉 三浦 淳二 少尉 夏坂 勇一 少尉 田間 英彦 少尉 嵯峨 直代 少尉 高橋 榮一 中尉 河田 榮一 大尉 望月 今一 副見士 萩原 弘志 大佐 遠藤 三郎 副中尉 山田 吉典	150				
104 22					
昭和二十年八月十五日南滿陣地に構築に参加、隊長以下四十名馬、受領のため鏡泊湖に赴いたから「ソ」軍の攻撃を受け歸隊 八月十八日停戦命令により現隊復歸 機化飛行場を集結 八月十九日同地で武解 人員百一名（機化飛行場に集結）	八、二二 機化 八、二五 沙河沿 一、一、三 沙河沿由ラリダ 收容所				
113					
					ネットブルスカヤ バルナウル トムスク ネグロスカヤ ロストフカ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1494
1495
1496
1497

第一方面軍直轄
第一三九師團
部隊名 歩兵第三八二聯隊
通稱 不届二七三〇四部隊
郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人編制		隊名	別	隊長名 (内は先代を示す)	關人 戰時	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソの變動	隊別 計	入ソ人員	滿洲殘留			
一〇二 主力はアルタイ山脈ヘルツツ ル附近に移動す 列車輸送にてネーブルンカ ヤ牧畜所に入る途中射殺二 名逃亡七名を出す 二〇一、四 ヘルツツル第二牧畜所を 一八〇〇名收容する八〇〇 名歸還の爲出所 死亡約二五〇名は栄養失調 に依る 殘留人員一〇〇〇名將校一 〇〇名は二〇八名の收容所 より將校のみ收容して来た 九五〇名出所は收容所閉鎖 のため將校一〇〇名下士官 五〇名は何處かの收容所に 送られた。小隊に於て も八、四日送附に於て教 官中の將校特別補佐要員に して原隊復舊不可能となり 歸入せる見習士官を除き見 習士官の小隊長一名を有す る中隊は僅に二ヶ中隊乃至 三ヶ中隊にして其の大部は 准尉曹長一名又は二名にて 一名は家畜を完てるを得 ない状況のまま解散となり たり		十九年以降	十九年以降	編制員													第一歩兵連小隊	第二大隊本部	第四中隊

部隊名 歩兵第三八二聯隊

通稱 號 不屈三七三〇四部隊

郵便所名

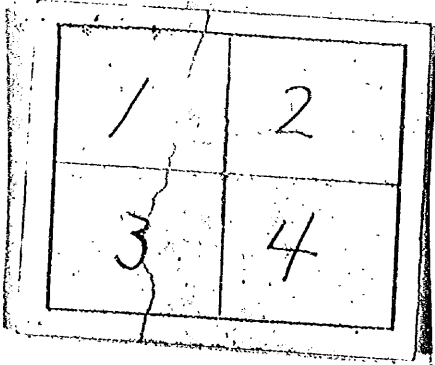
編制人員		別		隊長名		戰鬥間之狀況及損耗		終戦後之人員變動		作業大隊より入ソノ返の變動		入ソノ人員		滿洲殘留		收容所名		所人		歸還人員		狀況不明者數	
六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	隊小砲兵歩一第	別	隊長名	戰鬥間之狀況及損耗	終戦後之人員變動	作業大隊より入ソノ返の變動	入ソノ人員	滿洲殘留	收容所名	所人	歸還人員	狀況不明者數								
少尉 會爾 敏夫	少尉 高原	中尉 岩村伊勢三	中尉 金子孝威 副見士 星 洋		(内は先代を示す)																		
20	120	120	20																				

三方はブルタイ湖のブル
 の附近に発砲す
 列車砲にてネーブルスカ
 ヲ牧寮所に入る途中砲殺二
 名死亡七名を出す
 二〇、一一、四
 スルワル第二牧寮所を約
 一八〇〇名收容する八〇〇
 名餘遊の爲出所
 死亡約二五〇名は夜襲失脚
 に依る
 遊人員一〇〇〇名將校一
 〇〇名は二〇八名の收容所
 へり將校のみ收容して来た
 九五〇名出所遊牧寮所閉鎖
 のため將校一〇〇名下士官
 五〇名は何處かの收容所に
 運送された、小隊長に於て
 も八、一四日途程に於て牧
 寮中の將校特別補充要員に
 して原隊復舊不可能となり
 轉入せる見習士官を除き見
 習士官の小隊長一名を有す
 る中隊は僅に二ヶ中隊乃至
 三ヶ中隊にして其の大部は
 准尉曹長一名又は二名にて
 一名は軍曹を充てざるを得
 ない状況のまま解散となり
 たり

隊中銃關機二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	隊小砲兵歩一第
少尉 倉本	少尉 倉爾 敏夫	少尉 高原	中尉 岩村伊勢二	中尉 金子孝威 副見士 屋洋	
115	120	120	120	20	

隊中銃關機二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	隊小砲兵步一第
夕 舟 二 不	少尉 會爾 敏夫	少尉 高原	中尉 岩村伊勢二	中尉 金子孝威 副見士 星洋	
115	120	120	120	20	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1498
1499
1500
1501

第一方面軍直
第一三九師團

部隊名 步兵第三八二聯隊

通稱 號不屈三七三〇四部隊

郵便所名

全般概要
裝備に於ては小銃は概ね全
 員裝備し強者千の強者あり
 銃剣も各隊人員は携行のもの
 以外は殆んどなく各中隊概
 ね一〇銃名程のものがたり

轉入
 轉出
十九年以降

員人制編

隊別	隊長名 (内は先代を示す)	戦時人員	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ返の變動	入ソ人員 隊別計	満洲残留	收
隊小砲兵歩二第									
部本隊大三第	大尉 高森忠雄 副見士 菊池繁	20							
隊中七第	少尉 松本茂夫	120							
隊中八第	少尉 金子洪	120							
中九第	少尉 林判利 <small>指揮官 藤原 寛 副指揮官 柳 啓天 三ノ川 昭三 三ノ川 昭三</small>			<small>駐屯地 八二五 南滿洲 八二五 南滿洲 八二五 南滿洲</small>					

部隊名 歩兵第三八二聯隊

通稱 號不届二七三〇四部隊

郵便所名

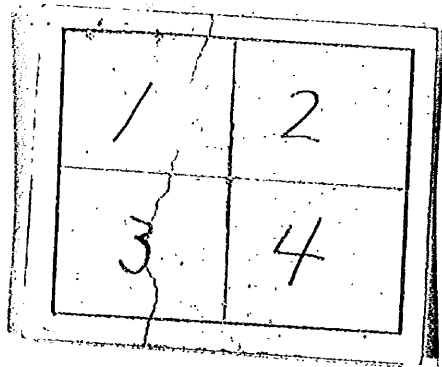
員人制編		別 隊	
九 第	隊 中 八 第	隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第
少尉 林 判利 指揮方隊長 柳 春夫 方三隊長 周 白 保 三三 松根 三三	少尉 金子 浩	少尉 松木 茂夫	大尉 高森忠雄 副見士 菊池 繁
	120	120	20
駐屯地 戦斗間の状況及損耗 終戦後の人員變動 作業大隊より 入ソノ迄の變動			
開人 戦時 平時			
駐屯地			
満洲残留			
收容所名			
收容所			
死亡			
満洲ソ領より			
計			
者数			
状況不明			

此表は、機中隊の機中隊員及び
 機中隊員以外に、機中隊員以外の
 機中隊員は、機中隊員以外の
 機中隊員は、機中隊員以外の
 機中隊員は、機中隊員以外の

隊中銃關機三第	隊中九第	隊中八第	隊中七第	部本隊大三第	隊小砲兵歩二第
中尉 岩川六四郎	少尉 林 邦利 少尉 柳 孝 少尉 柳 孝 少尉 柳 孝 少尉 柳 孝 少尉 柳 孝 少尉 柳 孝 少尉 柳 孝 少尉 柳 孝 少尉 柳 孝	少尉 金子 浩	少尉 松木 茂夫	大尉 高森忠雄 副見士 菊池 繁	
116		120	120	20	
	機中隊員 機中隊員 機中隊員 機中隊員 機中隊員 機中隊員 機中隊員 機中隊員 機中隊員 機中隊員				

隊中銃關機三第	隊中九第	隊中八第	隊中七第	部本隊大三第	隊小砲兵歩二第
中尉 岩川六四郎	少尉 林 判利 指揮方所長 中見 少尉 柳 芳天 少尉 周 芳天 少尉 尾根 芳天	少尉 金子 浩	少尉 松木 茂夫	大尉 高森忠雄 副見士 菊池 繁	
116		120	120	20	
	駐 八二五 南滿洲 八二五 教化部 及 駐				

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1502
1503
1504
1505

第一方面軍直轄
第一三九師團

部隊名 歩兵第三八二聯隊

通稱號 不届二七三〇四部隊

郵便所名

全般概要		轉入		轉出		員人制編	
十九年以降		十九年以降					
隊別		隊長名		開人		駐屯地	
隊小砲兵步三第		少尉 森 東一		時員		時戰	
隊中 信 通		中尉 遠藤 隆三		平		時戰	
隊中 砲 兵 步		見士 守田 修二		4		3	
隊小 馬 乘							
戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より		入ソニ人員	
満洲残留		隊別計		入ソニ人員		隊別計	
收							

昭和八年五月、南滿洲の南滿洲鐵道沿線の戦況を記す。

隊名 歩兵第三八二聯隊

通稱 號 不屈三七三〇四部隊

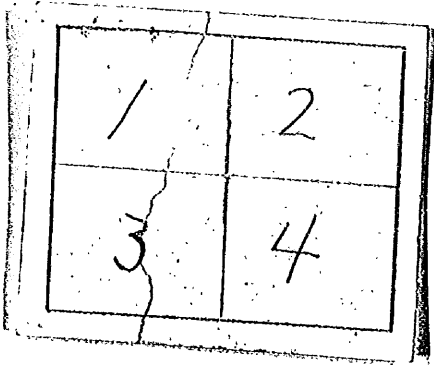
郵便所名

編制人員		別 隊	隊長名 (内は先代を示す)	開人 戦時 員	駐屯地		戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ迄の變動	入ソ人員 隊別計	満洲残留	收容所名	收容所 長	死亡	満洲ソ領 より	歸還人員 計	状況不明 者数
隊	員				地	時											
第三	歩兵	第三八二聯隊	少尉 森 東一	100													
第二	歩兵	第三八二聯隊	中尉 遠藤 隆三	150													
第一	乘馬小隊	第三八二聯隊	見士 守田 修二	43			昭和三十八年五月、南滿洲へ派遣されたが、戦死した。										

		隊小馬乗	隊中砲兵歩	隊中信通	隊小砲兵歩三第
		見士 守田 修三	中尉 遠藤 禮三	少尉 森 東一	
		43	150	100	
		昭和三十八年 南陽(馬場)に 隊を編成			

隊小砲兵歩三第	隊中信通	隊中砲兵歩	隊小馬乘
	少尉 森 東一	中尉 遠藤 盛三	見士 守田 修二
	100	150	43
			昭二〇八五、南島（東道） 隊在小隊

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1506
1507
1508
1509

第一方面軍軍直
第一三九師團

部隊名 第一三九師團挺進大隊

通稱號 不屈三七三〇八三部隊

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	人員制編		隊長名	開入	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	隊別計	滿洲殘留
命令に依つて佳木新發社丹江に向ふ途中空爆のため列車不通となり別路を通過し		十九年以降	十九年以降	334	23	()内は先代を示す	時員	平時	戦時	海林收容所に向ふ途中八、二六列車事故の爲横道河子の手前にて約八名死亡す	入「ソ」人員	計	
八、一一 教化塔				334	334	大尉 林 重武	30	新木 佳	利 化 勃 綏			30	
八、二三 ヘルピン沿其のまま終戦				334	334	中尉 港元 庄助	370	新木 佳	利 化 勃 綏	田中佐長死亡		200	
八、二四 ヘルピンに於て武装解除				334	334	中尉 小泉	370	新木 佳	利 化 勃 綏	二名死亡		200	
九、二 阿城を経て海林に收容				334	334	少尉 小泉	370	新木 佳	利 化 勃 綏	二名死亡		200	
九、四 主力な海林にて作業一四一 大隊編成(長六尉林重武)				334	334	准尉 左雨 明	370	新木 佳	利 化 勃 綏			200	
九、七 ウオロンロフ經由アルチョムへ一部はタウルチヤンカ 第四收容所に收容さる				334	334		370	新木 佳	利 化 勃 綏			200	

江ノ内と海中に遺棄されたもの
が不明となり、調査中である。

八、一一
炭化層

八、一二
ヘルビン遺物のまま焚棄

八、一四
ヘルビンに於て武器解除

九、二
阿城を経て海林に収容

九、四
主力は海林にて作業一四一
大隊編成（長大尉林重武）

九、七
ウオロシロフ經由アルチョ
ムへ一路はタウルヤンカ
第四収容所に収容す。

30 334 1130 334 334 23

大 隊 本 部	第 一 中 隊	第 二 中 隊	第 三 中 隊	第 四 中 隊	第 五 中 隊	大 隊 行 李
大尉 林重武	中尉 港元 庄助	中尉 小泉 少尉 小泉 少尉 小泉 少尉 小泉 少尉 小泉 少尉 小泉 少尉 小泉 少尉 小泉	少尉 小泉		准尉 左雨 明	
30	370	370	370	370	370	
斯木佳	斯木佳	斯木佳	斯木佳	斯木佳	斯木佳	斯木佳
利物 綏化	利物 綏化	利物 綏化	利物 綏化	利物 綏化	利物 綏化	利物 綏化
	田中佐 死亡	二名 死亡	二名 死亡			

八、二六列中隊等の調査中であるが、調査の結果、調査中である。

50 150 200 200 200 200 30

ウオロシロフ
アルチョム
タウルヤンカ
ヤンカ

大 隊 本 部	第 一 中 隊	第 二 中 隊	第 三 中 隊	第 四 中 隊	第 五 中 隊	大 隊 行 李
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

大尉 林 重武

中尉 港元 庄助

中尉 小泉
第 三 中 隊 長
第 四 中 隊 長
第 五 中 隊 長
田中 庄助
西野 庄助
中 各 中 隊 長
第 三 中 隊 長
第 四 中 隊 長
第 五 中 隊 長

少尉 十泉

准尉 左雨 明

30

370

370

370

370

370

斯 木 佳

斯 木 佳

斯 木 佳

斯 木 佳

斯 木 佳

斯 木 佳

斯 木 佳

利 物 化 綏

利 物 化 綏

利 物 化 綏

利 物 化 綏

利 物 化 綏

利 物 化 綏

利 物 化 綏

田中 庄助 死亡

二名 死亡

二名 死亡

八二六列車事故の爲に遺棄の手にあてた約八名死亡す

50

150

200

200

200

200

30

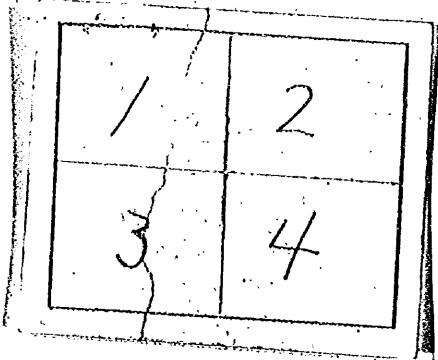
ウオロシコ
アルチヨム
タルチヤン
カ

員全隊部

120名~130名

員全隊部
〇二〇
〇二〇

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1510
1511
1512
1513

全般概要		編入制員		別隊		隊長名 (内は先代を示す)		戦時人員		駐屯地		戦闘間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入ソ連の變動		隊別計		滿洲殘留	
轉入 轉出 十九年以降		轉入 轉出 十九年以降		200				戦時人員 平時人員													

第一方面軍直轄
第一三九師團
部隊名 第一三九師團制毒隊
通稱號 不屈三七三〇五部隊
郵便所名

		員人制編
		別 隊
		隊 長 名 ()内は先代を示す
		戦 開 時 人
		駐 屯 地 平 時 戦 時
		戦 斗 間 の 状 況 及 損 耗
		終 戦 後 の 人 員 變 動
		作 業 大 隊 以 外 入「ソ」迄の變動
		入「ソ」人 員 隊 別 計
		滿 洲 殘 留
		收 容 所 名 ビスクー
		所 人 死 亡
		滿 洲 領 土 より 領 土
		計
		者 数 狀 況 不 明

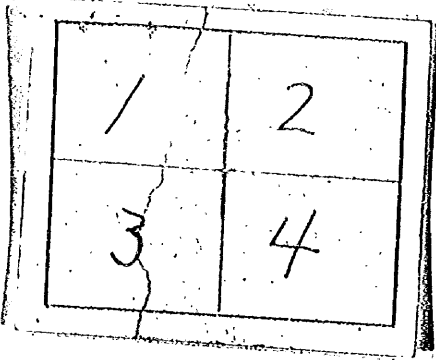
隊名第一三九師團制毒隊

通稱號不届三七三〇五部隊

郵便所名

ヒ
ス
ク
...

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1514
1515
1516
1517
1518

第一方面軍軍直 第一三九師團 部隊名 野砲兵第一三九聯隊 通稱 號不届三七三〇七部隊 郵便所名

全般概要		轉入	轉出	人員編制		隊別		隊長名		戦時人員		駐屯地		戦闘間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入「ソ」迄の變動		隊別計		滿洲殘留	
八、一五 鎮泊湖湖岸地帯への侵入のため教化野營地出發途中二泊す目的の湖濱新停戦命令を受け天幕生活に入る		十九年以降	十九年以降	員人制編		別 隊		少佐 田久保岩松 (内は先代を示す)		戦時人員		駐屯地		八、一四 鎮泊湖湖岸地帯の目的で教化野營地—沙河沿官地帯を通過中官地帯で停戦命令受領		終戦後の人員變動		作業大隊より入「ソ」迄の變動		隊別計		滿洲殘留	
八、二一 教化にて高野解散				1923		部 本 隊 聯		中尉 松島 秀二		2006				八、一六 教化に歸還後実装解除									
八、二四 師團命令に依り教化に集結直に將校下士官兵に區分され將校は飛行機格納庫へ收容下士官兵は附近集合に生活す				1923		部 本 隊 大 一 第																	
九、二 教化後沙河沿へ移動同地に作業二四四大隊編成將校は八、三〇沙河沿に移動す				1923		部 本 隊 中 一 第		少尉 今田															
一〇、三 病弱者一七名のみ北滿避難民(男子)として編成せる他部隊に轉属す				1923		部 本 隊 中 一 第		少尉 今田															
一〇、一 沙河沿に集結す				1923		部 本 隊 中 一 第		少尉 今田															
一〇、二 將校大隊のみ沙河沿に二階—の收容所へ				1923		部 本 隊 中 一 第		少尉 今田															
一〇、三 作業大隊後沙河沿				1923		部 本 隊 中 一 第		少尉 今田															
一〇、四 縦河沿河沿ハシカル方面に收容す				1923		部 本 隊 中 一 第		少尉 今田															

昭和二十年七月三十一日編成完結 殆んど在滿召集である
作業第二四一大隊(長 伊藤中尉)に編入され
「タイセツト」八收容所へ移送

1514
1515
1516
1517
1518

第一方面軍軍直
第一三九師團

部隊名 野砲兵第一三九聯隊

通稱 號不届三七三〇七部隊

郵便所名

全般概要					轉入	轉出	員人制編	隊長名 (内は先代を示す)	駐屯地 平時 戰時	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ連の變動	入ソ入員 隊別計	滿洲残留	
八、一五	八、二一	八、二四	九、二	一〇、一	一九一九年以降	一九一九年以降	別隊								
八、一五 鐵道沿線地帯へのため教化 野營地開設途中二泊す 目的到達前停戦命令を受け 天幕生活に入る 八、二一 教化にて武裝解除 八、二四 師團命令に依り教化に集結 するが部下士官兵に軍分 別符號は飛行機標榜隊へ教 容下士官兵に近距離命令に 添す 九、二 教化營沙河河沿(移動)地に て作業二四四大隊編成將校 は八、三〇沙河河沿に移動す 一〇、一 狩獵者一七名のみに北滿總督 府(男子)としてソ連政府に の留連を認むる 一〇、一 沙河河沿沿線(移動)					十九年以降	十九年以降	員人制編	少佐 田久保岩松	平時 戰時	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ連の變動	入ソ入員 隊別計	滿洲残留	
1923					三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊聯						
					少尉 青上	少尉 今岡	中尉 松島 秀二								
					200	140									
										八、一四 鐵道沿線地帯へのため教化 野營地開設途中二泊す 目的到達前停戦命令を受け 天幕生活に入る 八、二一 教化にて武裝解除 八、二四 師團命令に依り教化に集結 するが部下士官兵に軍分 別符號は飛行機標榜隊へ教 容下士官兵に近距離命令に 添す 九、二 教化營沙河河沿(移動)地に て作業二四四大隊編成將校 は八、三〇沙河河沿に移動す 一〇、一 狩獵者一七名のみに北滿總督 府(男子)としてソ連政府に の留連を認むる 一〇、一 沙河河沿沿線(移動)					

1514
1515
1516
1517
1518

1923					人員制編
三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊聯	別隊
少尉 村上	少尉 今岡	中尉 松島 秀二			隊長名 (内は先代を示す) 少佐 田久保若松
00	140				戦間 人員 駐屯地 戦時
					戦闘間の状況及損耗
					終戦後の人員變動
					作業大隊より 入ソ迄の變動
					入ソ人員 除別計
					滿洲殘留
					收容所名 バイカル西
					所人 死亡
					滿洲より ソ領より 計
					歸還人員 者数 状況不明

八、一四 敦泊湖南部占領の目的で教化出發
教化 沙河宮地道を新選中官地敷で
停戦命令受領
八、一六 教化 下層選發完結解除

部隊名 野砲兵第一三九聯隊

通稱 號不届三七三〇七部隊

郵便所名

第一第一大隊 第三中隊 第二中隊 第一中隊 第一大本部 聯隊本部

公名
三ツ谷五郎

中尉 松島 秀二

少尉 今岡

少尉 村上

206

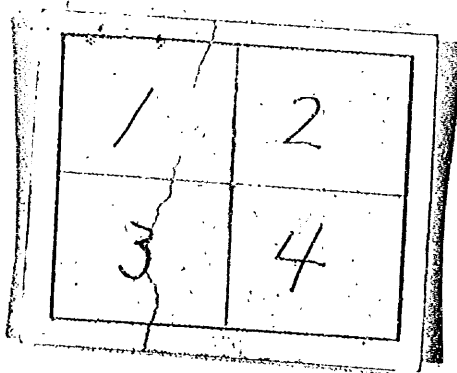
140

八、一四 銃指湖開闢占領の母船で教化出
発 教化一歩河津島地帯を前進中官地家て
停機令受領
八、一六 教化一歩河津島地帯を前進中官地家て

ハイカル西

分割撮影ターゲット

分割した
部分の
撮影順序



分割撮影
した理由

A 3 判 以 上 の た め

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

1519
1520
1521
1522

全般概要		第一方面軍直轄 第二三九師團		部隊名 野砲兵第一三九聯隊		通稱號 不屈三七三〇七部隊		郵便所名	
轉入 轉出		十九年以降 十九年以降		人員編制		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動	
別隊		隊長名 (内は先代を示す)		駐屯地		作業大隊より 入ソ返の變動		入ソ人員	
大尉 川口 正年		戰鬥時 平時		戰鬥時		隊別		計	
第二大隊本部		第四中隊		第五中隊		第六中隊		滿洲殘留	
						中尉 長尾 潤			

部隊名 野砲兵第一三九聯隊

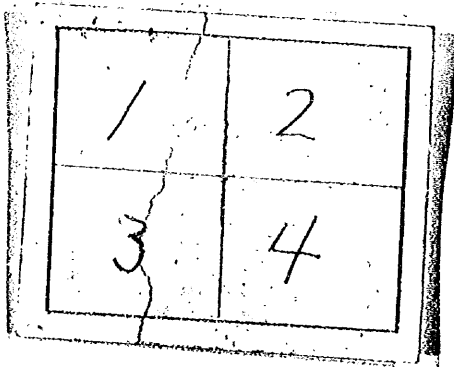
通稱號 不屈三七三〇七部隊

郵便所名

員人編		別		隊		第 二 大 隊 本 部		第 四 中 隊		第 五 中 隊		第 六 中 隊	
(内は先代を示す)		隊長名		大尉 川口 正年								中尉 長尾 潤	
戦時		戦時		戦時		戦時		戦時		戦時		戦時	
駐屯地		駐屯地		駐屯地		駐屯地		駐屯地		駐屯地		駐屯地	
戦時		戦時		戦時		戦時		戦時		戦時		戦時	
戦闘間の状況及損耗		戦闘間の状況及損耗		戦闘間の状況及損耗		戦闘間の状況及損耗		戦闘間の状況及損耗		戦闘間の状況及損耗		戦闘間の状況及損耗	
終戦後の人員變動		終戦後の人員變動		終戦後の人員變動		終戦後の人員變動		終戦後の人員變動		終戦後の人員變動		終戦後の人員變動	
作業大隊より入ソノ變動		作業大隊より入ソノ變動		作業大隊より入ソノ變動		作業大隊より入ソノ變動		作業大隊より入ソノ變動		作業大隊より入ソノ變動		作業大隊より入ソノ變動	
入ソノ人員		入ソノ人員		入ソノ人員		入ソノ人員		入ソノ人員		入ソノ人員		入ソノ人員	
隊別計		隊別計		隊別計		隊別計		隊別計		隊別計		隊別計	
滿洲殘留		滿洲殘留		滿洲殘留		滿洲殘留		滿洲殘留		滿洲殘留		滿洲殘留	
收容所名		收容所名		收容所名		收容所名		收容所名		收容所名		收容所名	
收容所		收容所		收容所		收容所		收容所		收容所		收容所	
死亡		死亡		死亡		死亡		死亡		死亡		死亡	
滿洲より		滿洲より		滿洲より		滿洲より		滿洲より		滿洲より		滿洲より	
領		領		領		領		領		領		領	
計		計		計		計		計		計		計	
者		者		者		者		者		者		者	
狀況不明		狀況不明		狀況不明		狀況不明		狀況不明		狀況不明		狀況不明	
者		者		者		者		者		者		者	
數		數		數		數		數		數		數	

隊 中 七 第	隊 中 六 第	隊 中 五 第	隊 中 四 第	部 本 隊 大 二 第
中尉 金子通隆	中尉 長尾 潤			大尉 川口 正幸

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1523
1524
1525
1526

全般概要					第一方面軍直轄 第一三九師團	部隊名 野砲兵第一三九聯隊	通稱號 不屈三七三〇七部隊	郵便所名
轉入 十九年以降					編制人員	別除	隊長名 (内は先代を示す)	開入 戦時 人員
轉出 十九年以降								
第三大隊	第九中隊	第八中隊	第三大隊本部	第二大隊隊列				
少尉 中野留五郎								
八、一五 鏡泊湖陸地に侵入のため露營地 山腹途中に泊する。目的地へ到着前露營地 命を要する。 激化露營地に引揚天幕露營をなす 八、二一 武装解除								
部隊の別は不明であるが、(各日誌) 八、一五 鏡泊湖陸地に侵入のため露營地 山腹途中に泊する。目的地へ到着前露營地 命を要する。 激化露營地に引揚天幕露營をなす 八、二一 武装解除								
終戦後の人員變動								
作業大隊より 入「ソ」迄の變動								
隊別 計								
入「ソ」人員								
満洲残留								
収容所								

